

大津 歴博 だより

2008
No.70

第45回企画展

ばい てい きん こく 楳亭・金谷

—近江蕪村と呼ばれた画家—

平成20年3月6日(木)～4月20日(日)



紀楳亭 漁夫大鯰図 大津・個人蔵



横井金谷 鍾馗大臣 京都府立総合資料館蔵(京都府京都文化博物館管理)



大津市歴史博物館

企画展「ほげ 楳亭・きん 金谷

— 近江蕪村と呼ばれた画家 —

江戸時代中期、松尾芭蕉への回帰を唱え、蕪風俳諧復興に尽力した与謝蕪村は、一方で、当時、新風をもたらしていた絵画スタイルであった文人画の立役者としても著名です。今から二〇〇年ほど前、この大津で、その蕪村のお弟子さんや、蕪村画風の作品で評判となった画家が活躍していたことをみなさんはご存知でしょうか。彼らは、紀楳亭（九老、一七三四—一八一〇）と横井金谷（一七六一—一八三二）の二人です。名前を見て、まず、彼らの名前はどうか読むのだろうか？、と思うのが自然だと思います。紀楳亭は「きばいてい」、横井金谷は「よこいきんこく」と読みます。楳亭は九老（きゅうろう）という別号を大津時代によく署名しています。



紀楳亭 秋草双狼図
大津市歴史博物館蔵・茂呂氏寄贈



紀楳亭 夏景山水図
大津・個人蔵

— 紀楳亭（九老） —

楳亭は、もともと京都に住んでいたものの、天明の大火（二七八八）で罹災し、現在の浜大津の近くに身を寄せてきて、亡くなるまでの二〇年あまりを大津で過ごしました。京都時代は、蕪村風の山水図をもっぱら描いていましたが、大津に住んでからは、近所の商家のために、縁起の良い吉祥物や、温和でのどかな山水画、そして軽妙な俳画を描いて好評を博していました。湖南の穏やかな風光や、気さくな大津町人たちの交遊が、彼の作風にも影響を与えたのでしょうか。

特に、彼の人物・動物表現は、現代日本の漫画にも通じる親しみやすく、コミカルな表情をみせる点で、非常に面白さと斬新さを感じさせる絵画であると同時に、大津の人々に慕われた、ほのほのとした彼の人柄が伝わってきます。



紀楳亭 俳画「川風や」
個人蔵



紀楳亭 飲中八仙図(部分) 個人蔵

— 横井金谷 —

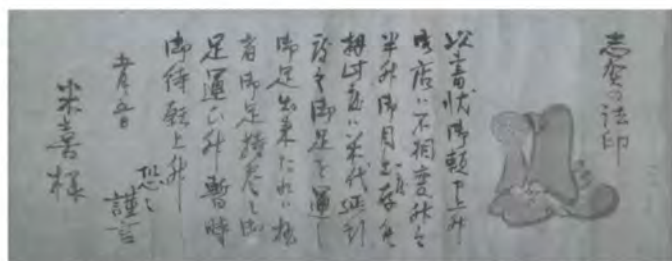
一方の金谷は、まれにみる奇人であり、なんでもやりたがりの行動派で、全国を放浪したアウトサイダーの画僧です。とにかく闊達で、おもしろおかしく、周囲をさんざんヤキモキさせたり、迷惑をかけながらも、憎めない人柄で、常に周囲に人が寄ってくる人物だったようです。その愛すべきキャラクターは、彼の書状に一番よく現れています。また作品は、奔放に筆を走らすダイナミックな山水を描く一方、マンガチックな略筆で、当時の市井の風俗や人物を描いており、旺盛な好奇心を作画にも発揮しています。そんな彼は晩年、坂本に庵を構え、米櫃こめびつの米が少なくなると、地元の人々に絵を描いては米をわけてもらっていたことが、書状からも判明します。

今回、そんな個性あふれる二人の画家のユニークな作品群を、地元の大津から精力的に発掘するとともに、海外からの里帰り品や、与謝蕪村や松村月溪（呉春）も含め、これまでにない二五〇点あまりという規模で展示いたします。近江蕪村と呼ばれた画家の、魅力的な作品の数々をお楽しみください。

【会期】三月六日（木）～四月二〇日（日）
 【休館日】月曜日、三月二二日（金）



横井金谷 俳画家鴨
 草津市所蔵中神コレクション



米喜宛 金谷書状 草津・個人蔵(米代の支払延期を頭を下げて金谷頼む)



横井金谷 六俳仙図
 大津市歴史博物館蔵



横井金谷 柳陰驟雨図・大窪詩佛賛
 個人蔵



横井金谷 蜀道積雪
 個人蔵

企画展「戦国の大津」アンケート結果

昨年十月六日から十一月十八日まで開催した企画展「戦国の大津」では、総数6598人の観覧者をお迎えすることができました。企画展に際しアンケートをお願いしたところ、1192人の方からご回答をいただきました。ここにその結果をご紹介しますとともに、今後の反省点などを簡単に報告させていただきます。まず各質問項目に対する数値は次のような結果でした。

1. どちらからお越しになりましたか。

- ①大津市内 578 ②大津市以外の滋賀県 177
③京都市 194 ④その他 228

2. 企画展「戦国の大津」を何でお知りになりましたか。(複数回答可)

- ①広報おまつ 242 ②ポスター・看板 444
③新聞 285 ④テレビ 69 ⑤ラジオ 33
⑥ホームページ等 83 ⑦情報雑誌 18 ⑧その他 18

3. 企画展「戦国の大津」の展示資料の内容や資料の説明文、文字の大きさはいかがでしたか。

- 「内容」①たいへん満足 286 ②満足 589 ③普通 279
④不満 31 ⑤たいへん不満 7
- 「説明」①たいへん満足 229 ②満足 500 ③普通 316
④不満 32 ⑤たいへん不満 10
- 「文字」①大きい 111 ②普通 775 ③小さい 214

4. どのお城に興味をもちましたか。(複数回答可)

- ①坂本城 507 ②大津城 536
③膳所城 599 ④その他 46

5. 一番興味を持った資料はなんですか。

明智光秀木像、本能寺跡出土瓦、膳所総絵図を始めとする絵図類、出土遺物、明智光秀書状、坂本城・大津城に関する郷土史家の研究資料、関ヶ原合戦絵図、武将の画像、鎧と刀など多彩な回答がありました。

6. あなたのお城のイメージはどのようなものですか。また、好きなお城はありますか

・お城のイメージは、戦国時代の武将の象徴、天守閣、つわものどもの夢の跡、権力の誇示、地域のシンボル、世界に誇れるもの、荒城の月などです。
・好きな城としては、彦根城・姫路城・安土城・大坂城・犬山城などに人気が集まっていました。

7. 差し支えなければ、あなたの性別・年齢層を教えてください。

- ①女性 390 ②男性 620
- ①19歳以下 85 ②20歳代 68 ③30歳代 134
④40歳代 208 ⑤50歳代 224 ⑥60歳代 285
⑦70歳代 155 ⑧80歳以上 33

設問1ではやはり大津市内が圧倒的ですが、県外からも多くのお客様をお迎えてきました。設問2では、ポスター・看板以外にホームページも好評でした。また今回はNHK、KBS京都・エフエム滋賀にも多く取り上げていただいたことから、テレビ・ラジオで知った方も目立ちました。設問3では、たいへん満足、満足の方がかなり多く、嬉しい集計結果となりました。ただ一方で、たいへん不満という方もおられます。それらの方々では、展示照明が暗い、文字が小さくて見にくいといったご意見が見られます。展示照明については作品保護の点からやむをえない面がありますが、文字を大きくするとカスポットを当てるなどの工夫もしていきたいと考えています。また設問4では、取り上げた三つの城に興味をもたれた方が均等な結果になりました。

ただ、大津城については市街地の開発により、ほとんどその痕跡を止めないことから、企画展で始めて存在を知ったという方も多く見られました。設問7では、四十歳代以下の方々が全体の四割を超え、ご家族連れ、あるいは小学生・中学生の友達同士で見に来られる方も目立つなど、戦国ファンの年代層の広さを改めて確認した次第です。次に「ご意見欄」にお書きいただいたご意見について、抜粋になりますが紹介します。

- ・古文書の内容解説をしてほしい。
- ・石山城や瀬田城など住宅開発で無くなっていくのは腹立たしい。
- ・学芸員の方に丁寧な説明をしていただきありがたかった。
- ・大津ゆかりの武将などの展示をしてほしい。
- ・「おおちゅー」のQ&Aは初心者向きな疑問にびったりだと思った。



おおちゅー

- ・古い地図と現在の地図と比較できればもつとよかった。
- ・戦国の大津と銘打つならもう少し戦（いくさ）の様子などを展示してほしいかった。
- ・膳所城が琵琶湖に突出していたことを初めて知り、興味深かった。
- ・おおまかな歴史の流れを示す年表等の展示があればよかった。
- ・音声ガイドがあると便利。
- ・地元の研究者についてもとりあげているところが良かった。開発で研究がむずかしくなっていく前の先人の研究の貴重さを改めて感じた。
- ・城の背景にある武将像にもっと迫ってほしいかった。城がテーマであることは知っていたが、「戦国の大津」としては大変物足りなく感じた。
- ・鎧や兜の展示会が見たい。あと県内の山城の展示会も。
- ・各藩の歴史が判るものがあれば、なおよかったと思います。
- ・国友火縄銃実演は良かった。実弾ではなかったが迫力があつた。

・不満でした。大津の城の解説をもつと解りやすく。展示資料も少なく不満足です。本能寺の瓦は楽しみでした。もう少し詳しく説明があれば良かったのでは。

・戦国武将三代表に滋賀大津周辺の城というつながりに大変興味を持てました。

・もつと内容をふくらませて倍くらいのスペースで展開しなければものたらない。今後こういう企画展を観光という形で考えていただけのなら、歴博を本丸と考えていただき、各所にある昔ながらの商店や寺を出城と思っただければ大津の活性になると思います。

・協賛した新聞社の特集紙を無料配布しているのは大変良かった。

歴史博物館として、今回いただいたご意見は非常に参考となり、今後の企画展の展示手法や運営に活用させていただきたく所存です。ここに改めて、ご協力くださった方々にお礼を申し上げます。



国友火縄銃実演



企画展会場風景

明治期の大津市街古写真

下の写真は、明治期の大津市街の古写真で、三井寺（園城寺）観音堂の高台から大津市中心部に向かって撮影したものです。位置関係を詳しく解説すると、手前から写真中央に伸びる道が長等神社前の参道、その突き当たりのやや右手から上に伸びる筋が中町通、その右手の筋が京町通にあたります。

この写真の現物は、B5サイズ程度の大きさで、左下に「BIWA LAKE:599」の文字が刷り込まれています。この写真を誰が撮影したのかは今のところ不明ですが、この英文から幕末明治に外国人のみやげ物として販売されていたアルバム、いわゆる「横浜写真」である可能性が考えられます。

写真は見渡す限りの瓦屋根で、視界をさえぎる建物が一切なく、湖岸まですっきりと確認することが出来ます。今回この写真を紹介するにあたり、年代特定を試みましたが、特徴的な建物がないため、逆に苦勞するほどでした。

写真の左端、湖岸との境にすこし大きめの屋根が見えるのが今の浜大津付近。明治十三年（一八八〇）、大津・京都間の鉄道開通時に設けられた大津駅舎と思われる建物です。当時の駅舎を撮影した写真は現在まで確認できていませんが、当時の引札に描かれた姿や平面図などから推定できます。また、写真右隅、手前の立木が途切れるあたりが現在の滋賀県庁にあたる場所です。現庁舎の前の建物が建設されるのは、明治二十一年のこと。それが見えないことから、撮影年代は、鉄道開通の明治十三年から滋賀県庁が移転する明治二十一年までということになります。

この写真は、明治期の写真であると同時に、「大津百町」とよばれた江戸時代の大津の様子をよく伝える写真ともいえます。一度撮影地と同じ場所に立ち、江戸時代の大津を想像してはいかがでしょうか。

（木津 勝）



大津歴博だより No.70
平成20年2月15日

大津市歴史博物館
〒520-0037 大津市御陵町2-2 ☎(077) 521-2100
ホームページ <http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp>